

<報道資料>

本資料は本日付で都庁記者クラブにお届けしています。

2011年8月18日

商店街振興組合原宿表参道櫛会

表参道イルミネーション実行委員会

<表参道イルミネーション 復興支援プロジェクト 第1弾>
仙台市「SENDAI 光のページェント」開催支援へ
～LED約6万球の提供や、表参道で募金活動・仙台観光支援PRを実施～

この度の東日本大震災により被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。

商店街振興組合原宿表参道櫛会(事務局:東京都渋谷区、理事長:松井誠一、以下櫛会)及び、表参道イルミネーション実行委員会(実行委員長:松井誠一)は、宮城県仙台市で毎年12月に開催されるイルミネーション「SENDAI 光のページェント」(主催:2011SENDAI 光のページェント実行委員会、実行委員長:瀬戸敏之)の開催支援を行うことを決定いたしました。

「SENDAI 光のページェント」は、1986年に日本最初の街路樹のイルミネーションとして始まり、昨年2010年には開催25回目を迎えた仙台の冬の風物詩です。しかし、東日本大震災でLEDを保管していた倉庫が津波の被害に遭い、約55万球のLEDが全損。2011SENDAI 光のページェント実行委員会は、被災地として復興への希望の灯りをともしたいとの思いから、「光の和、想いをひとつに!」のスローガンの下、今年12月の開催を目指し、全国から協力を募っています。

そこで、けやき並木への電球色の装飾という共通点を持ち、街路樹へのイルミネーションの先駆け同士として親交のあった当実行委員会は、表参道イルミネーションに使用しているLED約6万球を提供。また、櫛会加盟店舗に募金箱を設置し、「SENDAI 光のページェント」開催に向けた資金を募集します。さらに、まちかど庭園では、仙台の観光支援PRのために、「SENDAI 光のページェント」と連動した展開を予定しています。

“表参道から元気を発信したい”という思いから開催している表参道イルミネーション。今後も様々な活動を通して、仙台、東北、そして、日本全国へ、光とともに元氣と笑顔を届けたいと考えています。尚、表参道イルミネーションにつきましては、今年12月の開催に向け検討しています。



2010SENDAI 光のページェント



表参道イルミネーション 2010

本件に関するお問合せ先

【報道関係の方】	原宿表参道櫛会広報センター 担当:高橋	TEL:03-3403-0192	携帯:080-5896-5959
【一般の方】	表参道イルミネーション事務局	TEL:03-5766-5210	

<表参道と仙台のイルミネーションの歴史>

1986年、街路樹を大規模に光で飾る日本最初のイルミネーションとして、「SENDAI 光のページェント」が開催されました。櫛会の前身である原宿シャンゼリゼ会は、仙台の事例を参考に、表参道での開催を目指し、1991年に都内で初となる街路樹を装飾した「表参道イルミネーション」の開催となりました。

2009年に表参道イルミネーションが復活したことにより、互いのイルミネーションを見学し情報共有するなど、表参道イルミネーション実行委員会とSENDAI 光のページェント実行委員会との親交を深めています。



表参道イルミネーション実行委員会 実行委員長 松井誠一

まずはじめに、今回の東日本大震災の被災者の皆さんに、心よりのお見舞いを申し上げます。

私たち表参道がイルミネーションを始めたのは、ちょうどバブル崩壊のころでした。日本を覆った沈滞ムードを払拭し、新たな日本の希望の光となることを目指しました。今回私たちが経験した大災害の時こそ、みんなが力を合わせて未来の明かりとなることを目指したいと思います。復興にはまだ多くの時間と努力が必要だと思いますし、その中での開催がいかに大変か想像に難くありません。しかし力を合わせ、たとえ小さな明かりでも共にこれを育てていきましょう。明日を信じて。



2011 SENDAI 光のページェント実行委員会 実行委員長 瀬戸敏之

表参道イルミネーション実行委員会様のご支援に心より感謝申し上げます。今年で「SENDAI光のページェント」は26回目を迎えます。本年度は大震災を経験した後の開催となります。私たちが灯す光で、鎮魂の光、生きるための光、復興の光、子どもたちの夢と希望の光…様々な光を見ていただき、一人でも多くの方に笑顔になっていただきたいと思います。12月のイベント開催に向け実行委員一同努力して参ります。今年の「SENDAI光のページェント」を成功に導いていただけますよう、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

SENDAI 光のページェントについて

仙台市の定禅寺通のケヤキ並木に数十万球に上る数の電球を取り付けて点灯するイルミネーションイベント。毎年200万人以上の観光客が訪れ、「仙台七夕まつり」と並ぶ仙台の風物詩です。

1986年、『「杜の都」から「光の都」へ』を理念に、市民ボランティアが「杜の都・仙台」を象徴する定禅寺通と青葉通のケヤキ並木にイルミネーションを施したのが始まりです。昨年2010年には25回目を迎え、電球を全てLEDへと変更しました。

実行委員会を中心に市民ボランティアが開催するイルミネーションイベントとしては先駆例であり、かつ、20年以上も市民主体の体制を維持しているため、国内やアメリカなど海外からの問い合わせや視察を受けており、イベント運営方法や資金集めのノウハウ等を各地に伝える活動も行っています。

